

毎年繰り返される
斃獣処理場は、12～2月に仔牛の搬入で忙しい
もっと仔牛に優しくして・・・

図1は、上春別にある2つの斃獣処理場に搬入される3ヶ月齢以下の仔牛の、月別、合計搬入頭数です。1月～2月に非常に多くなっています。6月の2倍の頭数が搬入されています。これがほぼ毎年繰り返されています。

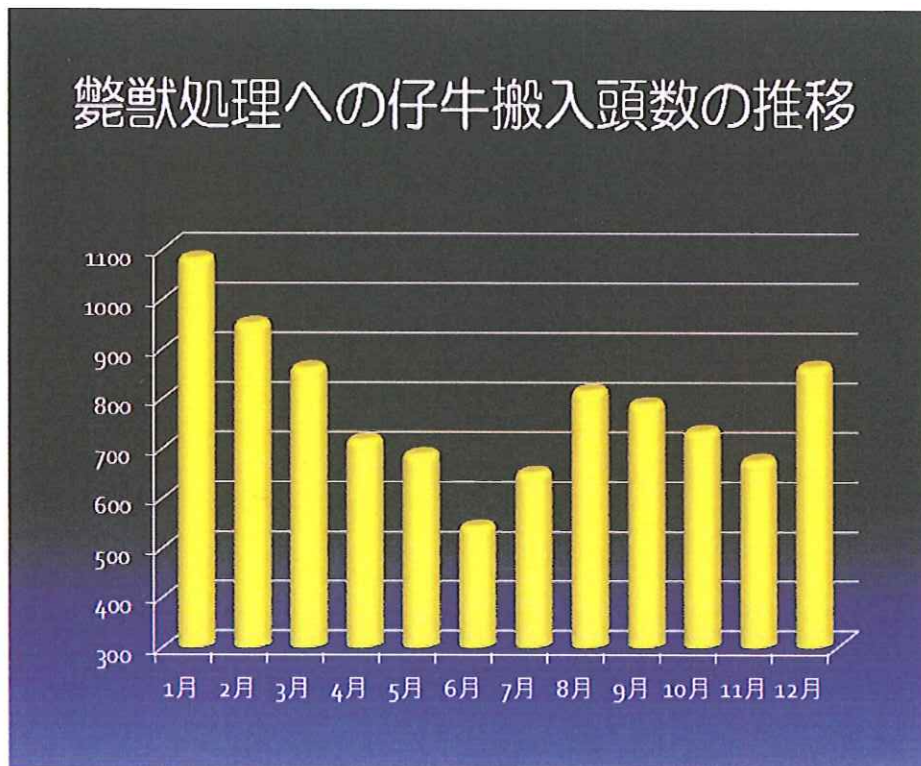


図1

雌雄両方の頭数が含まれ、死産仔牛も含まれてはいるでしょうが、1月と2月だけで2000頭の仔牛が搬入されています。仮に雌雄半々だと、1000頭がオス、1000頭がメス仔牛ということになります。1000頭の子牛の市場価格はいったいいくらになるのでしょうか？

10万円 x 1000頭 = 1億円です。たった2月で1億円近いお金と、各農場の未来と資源が失われていることになります。こんなロスをしていては、TPP以前の問題です。

理由は明白です。寒さに対応したマネージメントができていないからです。

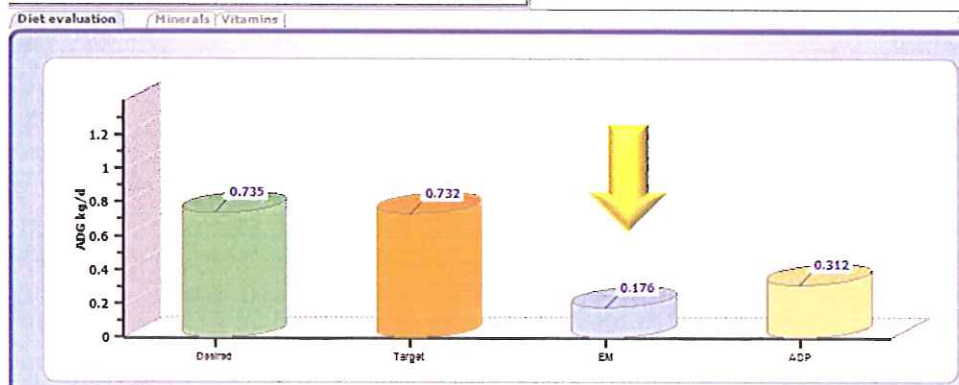
2つの寒さに対応するマネジメント

1. カロリー（エネルギー）

寒いときに重要なのは、エネルギーです。エネルギーが体温を維持し、免疫力を維持する源なのは、周知のとおりです。このエネルギーが通常の哺乳と環境温度でどう変化しているのでしょうか？ NDSのプログラムの一部切り抜きです。平均増体を0.7kg/日に合わせてあります。スターターの摂取は含まれていません。スターターに関しては、最後にコメントしています。

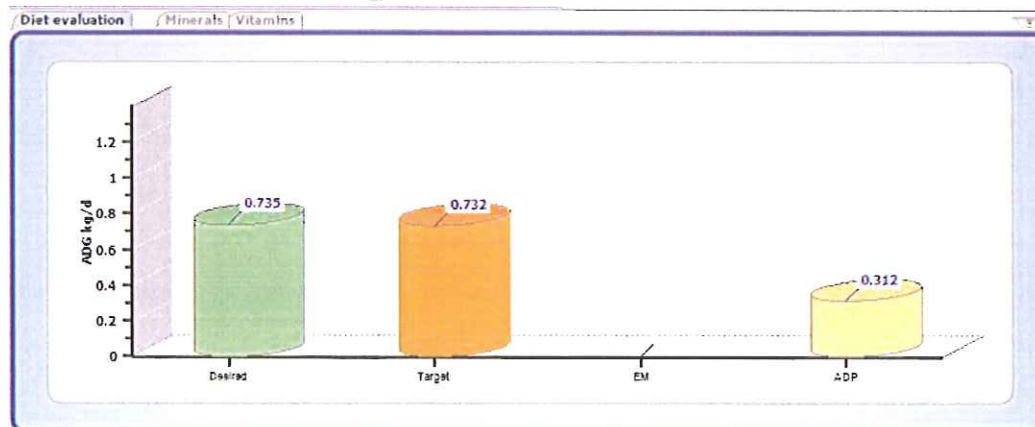
1) 環境温度 15°C : 500g (CP24:FAT24 粉ミルク)の場合

Cali Model					CP	%	25.53	120.00
	Supply	Balance	% Req.	Growth kg	Soluble Protein	%	22.90	100.00
ME Mcal/day	2.36	-1.55	60.3	0.176	EE	%	25.53	120.00
ADP g/day	111.60	-106.63	51.1	0.312	Ca	%	1.67	7.65
CP g/day	120.00	-114.65	51.1		P	%	1.40	6.57
ME Mcal/kg	5.01							
NEm Mcal/kg	3.86							
NEg Mcal/kg	3.01							



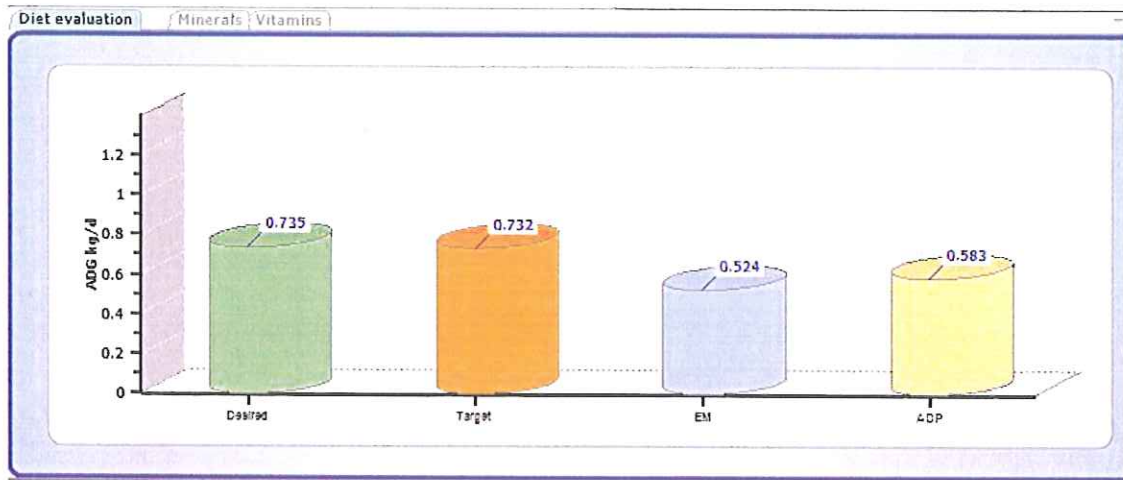
環境温度が15°Cあれば、わずかながらもエネルギーには、成長の余裕があります。右から2番目（左が目標値になってます）

2) 環境温度 0°C : 500g (CP24:FAT24 粉ミルク)の場合



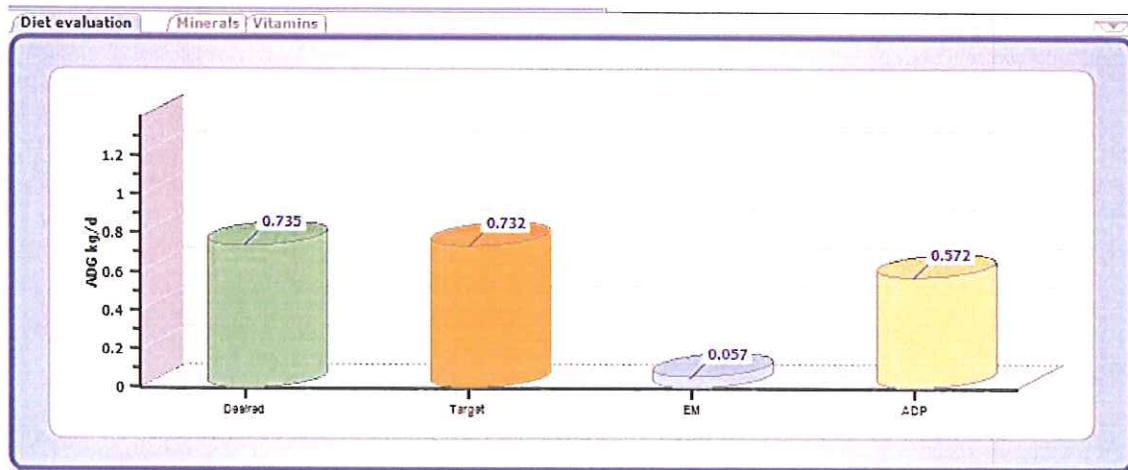
0°Cに下がっただけですでにエネルギーの余裕はなくなります。

3) 環境温度 0℃ : 生乳6 Lの場合



生乳6 Lあるとまだまだ余裕はありますが・・・

4) 環境温度 -20℃ : 800g (CP24:FAT24 粉ミルク)の場合



-20℃の環境温度になれば粉体で800g 給与されてもぎりぎりです。
日中の温度が-10℃くらいになる外気温の状態、仔牛は必至で生きています。

5) 寒くミルクが足りない仔牛は、カーフスターターをいっぱい食べるが・・・

ミルクが足りないために仔牛は、生きるためにスターターをいっぱい食べるようになります。しかし、仔牛の一般的な、でんぷんやタンパクなどの消化能力は極めて低いのです。食べてもなかなか栄養になりません。図2

仔牛はミルクで育つようにできているのです。冬にスターターの摂取が高まるのは、ミルクが足りないという裏返しです。冬にスターターの摂取が高まって離乳を早めると、より悲惨なことになります。

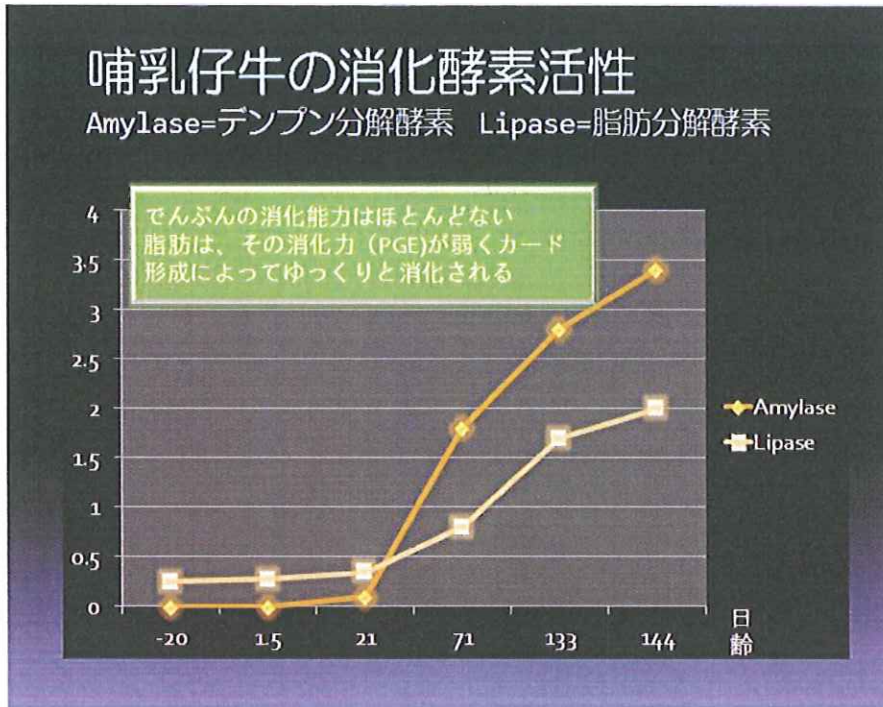


図 2

スターターをいっぱい食べる時には、水が必要です。ところがこの水がまた問題です。一つは、冬、水の給与量が不足すること、そして水が冷たすぎることです。スターター1に対して水が4必要だと言われています。(スターター1kg 食べれば、水は4L 必要ということになります。研究によると8°Cの水を飲ませると、ルーメンの内容物温度が7°Cも低下するそうです。水温19°Cのものだと、ほとんど低下しないそうです。冬季に生まれた子牛は、その増体が低く、後の泌乳量(3乳期)も低いことがわかっています。泌乳量が低いのは、まだラッキーで、殺してはいけません。もっとエネルギーが必要です。

写真1は、栄養が満たされている仔牛と満たされていない仔牛の腎臓の周りの脂肪を示しています。エネルギーの足りない仔牛の腎臓には脂肪の痕跡すらありません(体全体がそういう状態ということ)。こうしたエネルギーの供給に関して、冬にはよりシビアになります。左の腎臓のような仔牛が、下痢をすれば、どのような立派な治療をしても斃獣処理場が忙しくなってしまうでしょう。

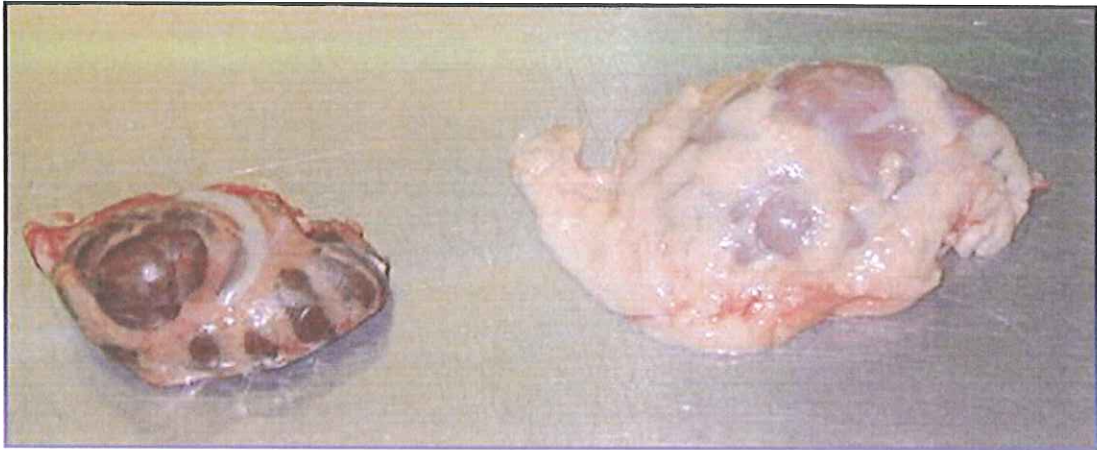


写真1

もう一つの寒さに対する大事なマネージメントは、敷料です。これはとてもシンプルに重要です。次回にします。

<クイズ>

冬、仔牛に対するマネージメントとして優先順位をつけるとすると、栄養と敷料どちらが優先するのでしょうか？ もしあなたが仔牛なら、どちらを選びますか？ どちらも重要ですが・・

いつか北海道新聞にも紹介されていましたが、南研子という女性を書いた「アマゾン・インディオからの伝言」というなかで、地元インディオの言い伝えが紹介されていました。「ジャングルが大火事になったとき、一匹のミツバチが一滴の水を一生懸命運んでいたそうです。なぜそんなことをしているのかミツバチに聞くと、「自分が今できる精一杯のことをやっているだけです」という答えが返ってきたそうです。」 翻って自分自身は、精一杯の水を運んでいるのかどうか、時々この「インディオからの伝言」を思い出します。

黒 崎